

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年3月28日

## 【評価実施概要】

|               |                                           |
|---------------|-------------------------------------------|
| 事業所番号         | 4271102347                                |
| 法人名           | 有限会社 シャローム                                |
| 事業所名          | グループホーム 希望の家                              |
| 所在地<br>(電話番号) | 長崎県西海市西彼町小迎郷1074番地3<br>(電 話) 0959-29-7310 |

|       |                          |       |            |
|-------|--------------------------|-------|------------|
| 評価機関名 | SEO (株)福祉サービス評価機構        |       |            |
| 所在地   | 福岡市博多区博多駅南4-2-10 南近代ビル5F |       |            |
| 訪問調査日 | 平成19年11月6日               | 評価確定日 | 平成20年3月29日 |

## 【情報提供票より】(平成19年 4月 1日事業所記入)

## (1)組織概要

|       |           |                           |      |
|-------|-----------|---------------------------|------|
| 開設年月日 | 平成16年8月1日 |                           |      |
| ユニット数 | 3 ユニット    | 利用定員数計                    | 27 人 |
| 職員数   | 13 人      | 常勤 8人, 非常勤 5人, 常勤換算6.45 人 |      |

## (2)建物概要

|      |        |             |
|------|--------|-------------|
| 建物形態 | 単独     | 改築          |
| 建物構造 | 鉄骨造り   |             |
|      | 2 階建ての | 1 階 ~ 2 階部分 |

## (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

|                     |            |                |          |
|---------------------|------------|----------------|----------|
| 家賃(平均月額)            | 12,000 円   | その他の経費(月額)     | 円        |
| 敷 金                 | 有( 円)      | 無○             |          |
| 保証金の有無<br>(入居一時金含む) | 有( 円)      | 有りの場合<br>償却の有無 | 無        |
| 食材料費                | 朝食         | 260 円          | 昼食 300 円 |
|                     | 夕食         | 300 円          | おやつ 80 円 |
|                     | または1日当たり 円 |                |          |

## (4)利用者の概要

|       |         |         |         |
|-------|---------|---------|---------|
| 利用者人数 | 27 名    | 男性 7 名  | 女性 20 名 |
| 要介護1  | 5 名     | 要介護2    | 8 名     |
| 要介護3  | 9 名     | 要介護4    | 3 名     |
| 要介護5  | 2 名     | 要支援2    | 名       |
| 年齢    | 平均 84 歳 | 最低 72 歳 | 最高 97 歳 |

## (5)協力医療機関

|         |                        |
|---------|------------------------|
| 協力医療機関名 | セントノーヴァー病院・真珠園療養所・山口歯科 |
|---------|------------------------|

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

国道から少し山手に入り周囲は農地に囲まれた場所で、企業の男子寮を改築し平成14年2月開設されたホームであるが、施設的な雰囲気にならないよう、玄関前には季節の花が植えられ親しみやすさに配慮されている。施設長が病気で物を忘れてしまう・覚えられない事の大変さや、不安の大きさを体験されと事を基に、キリスト教の教えに沿い「その方の気持ちになって日々の中で、希望を探しながら快適な生活を送れるように」との思いから、グループホームの必要性を強く感じ、多くの人々に支えられユニット増設している。大豆たんぱく製品や野菜を中心の食事を心掛け、入居者の健康管理に留意し、思いを把握する為に入居者の言動や行動を基に職員で話し合ったり、行動を共にしたりしながら支援している。身内の方がおられない入居者の方も最期まで安心して過ごせるよう、ホーム内に教会や納骨堂を設置されている。

## 【重点項目への取り組み状況】

|      |   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|------|---|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 重点項目 | ① | 前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)<br>廊下や風呂場の手すりを設置される等、構造部分についても徐々に改善されてきている。一人て出来る事は見守りながらして頂き、介護計画に沿った記録を行う事でモニタリングの実施や計画の見直しにつなげるようにすると共に、計画書の書式の変更、プランチェック表を毎日記入し、カンファレンスを行っている。介護の基本や事例検討等、定期的に内部研修を行っている。                                                                              |
|      | ② | 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)<br>管理者は地域密着型サービスについて、地域住民の方と今から一緒にやっていく必要があるという思いで項目毎の説明を行ったが、項目の理解が難しく手探り状態の中から2人1組で自己評価に取り組み、ユニット毎に話し合いをしながら管理者がまとめた。前回の外部評価結果は時間をかけて改善策を検討し、改善計画書を作成し全員で取り組み改善されてきている。                                                                                           |
| 重点項目 | ③ | 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)<br>市内の5つのグループホームと合同で運営推進会議を開催し、各グループホームの状況報告や前回の外部評価結果の報告を行っているを主にしている。合同の会議は広域の情報を得る事が出来て良い反面、家族のご意見が言いづらい面もあると考え、単独での会議の開催も検討している。市役所には空室状況をお伝えしたり、制度についての相談やアドバイスを頂いている。                                                                          |
|      | ④ | 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)<br>毎月のお便りにホームの行事やお誕生日、暮らし振や健康状態等をお伝えし、必要に応じて電話連絡をしている。金銭管理については収支ノートをコピーしてお便りに同封し、職員の異動はご家族が来られた時に口頭でお伝えし、安心して生活できるよう支援している。ご意見箱が設置されているユニットもあるが活用が今一つの状況で、ご意見を書いて頂けるよう記入用紙や筆記用具の設置、面会に来られた時に用紙を渡して書いて頂く工夫や、来訪の間隔が開く家族に対しても電話や手紙などでご意見が頂けるような取り組みを検討中である。 |
| 重点項目 | ⑤ | 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)<br>以前は入居者も運動会を見に行く等していたが、地域の範囲が広くADL低下等で最近では参加も難しい。地域の方に夏祭りに来て頂いたり、ボランティア受け入れや学童保育の場所を提供している。近くの農家の方の勧めにより、規格外で出荷しない果物や野菜を、入居者と共に畑で収穫している。地域の一人として敬老会の時の差し入れや職員が踊りに参加したり、地域の方もホームを気にかけて頂き、入居者が一人で外出された時は連絡やお連れして頂く等、地域に支えられている場面もある。                                   |

## 2. 評価結果(詳細)

( ☐ 部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

| 外部                    | 自己 | 項目                                                                                      | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)                                                                                                                                                                                            | (○印) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取組んでいることも含む)                                                                                                          |
|-----------------------|----|-----------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>I. 理念に基づく運営</b>    |    |                                                                                         |                                                                                                                                                                                                                            |      |                                                                                                                                           |
| 1. 理念と共有              |    |                                                                                         |                                                                                                                                                                                                                            |      |                                                                                                                                           |
| 1                     | 1  | ○地域密着型サービスとしての理念<br>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている                  | 脳腫瘍に罹り“物を忘れてしまう・覚えられない”事の不安の大きさを体験した施設長が、キリスト教の教えを基に「その方の気持ちになって日々の中で、希望を探しながら快適な生活を送れるように」との思いで、グループホームの必要性を強く感じ人から人へ紹介を頂き、協力を得てH.14. 2に設立した。聖書の中の言葉の「夕暮れ時にも輝く人生」という理念の中に、健康で好きな人・親しい人と話せ、したい事が出来るという込められた意味を職員は十分理解している。 | ○    | 理念の中に込められている“安心、ゆっくり、自分らしく”という思いが、入居者や家族、来訪者にも解り易くなるようサブタイトルや言葉を補足する事を検討中であり、地域密着型サービスとしての理念を作り上げられる事に期待したい。                              |
| 2                     | 2  | ○理念の共有と日々の取り組み<br>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取組んでいる                                      | 毎朝、全ユニットの日勤職員が一同に会し賛美歌を歌い、理念に通じる「今日の言葉」を職員が持ち回りで読み合わせ、その意味をケアの場面に結び付け、一日の心構えとしている。その後の申し送りでは所長が聖書を読み、理念に照らし合わせ伝えており新入職員等、理解の程度に差は感じられるが入職時の研修を行い理念の理解につなげている。                                                              |      |                                                                                                                                           |
| 2. 地域との支えあい           |    |                                                                                         |                                                                                                                                                                                                                            |      |                                                                                                                                           |
| 3                     | 5  | ○地域とのつきあい<br>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている               | 入居者も運動会を見に行ったりしていたが、ADL低下等で参加が難しくなっているが、夏祭りやボランティア等、地域の方に来て頂いたり学童保育の場所を提供している。近くの農家の方のご厚意により果物や野菜畑の収穫を入居者と共に行っている。地域の一員として敬老会の時の差し入れや職員が踊りに参加したり、地域の方もホームを気にかけて頂き、入居者が一人で外出された時は連絡やお連れして頂く等、地域に支えられている場面も多い。               | ○    | その日の体調や場所について検討し出来る限り参加する事や、参加できる行事についても検討していきたいと考えており、参加できる方についても時間を限りながら、体調に無理のない範囲で地域活動に参加していく機会や、入居者が地域で暮らし続けていく為の基盤作りとしての取り組みに期待したい。 |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 |    |                                                                                         |                                                                                                                                                                                                                            |      |                                                                                                                                           |
| 4                     | 7  | ○評価の意義の理解と活用<br>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる                 | 管理者は地域密着型サービスについて、地域住民の方と今から一緒にやっていく必要があるという思いで項目毎の説明を行ったが、項目の理解が難しく手探り状態の中から2人1組で自己評価に取り組み、ユニット毎に話し合いをしながら管理者がまとめた。前回の外部評価結果は時間をかけて改善策を検討し、改善計画書を作成し全員で取り組み改善されてきている。                                                     | ○    | 自己評価項目の理解を深められる事で、地域の中で入居者が暮らし続ける為にホームが果たす役割の理解にもつながっていくと感じており、時間をかけて説明し日々のケアの振り返りにつなげていきたいと考えており、今後の取り組みに期待していきたい。                       |
| 5                     | 8  | ○運営推進会議を活かした取り組み<br>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 市内の5つのグループホームと合同で運営推進会議を開催し、各グループホームの状況報告を主にしている。入居者の生活基盤が広いので広域の情報を得る事が出来て良い反面、家族のご意見が言いづらい面もあると考えている。今後ホーム単独での会議の開催も検討している。                                                                                              | ○    | 入居者や家族、地域の方々と一緒に話し合いをしていきたいと考えており、会議という格式にこだわらず、出席者でお茶をいただきながら気づいた事を話し合ったり、解らない事や疑問に思っている事にお答えするところから始めていける等、取り組みに期待していきたい。               |

| 外部              | 自己 | 項 目                                                                                                  | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)                                                                                                                                                                            | (○印) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取り組んでいることも含む)                                                                                     |
|-----------------|----|------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 6               | 9  | ○市町村との連携<br>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる                               | 市役所には介護保険の更新申請手続きや、空室状況をお伝えしている。共用型デイサービスの制度についてや書類の作成方法について、相談したりアドバイスを頂いている。市役所の方も参加する会議等で施設の状況を報告しており、今後もさらに深めていきたいと考えている。                                                                              | ○    | 市の窓口を訪れる際、ホーム便り等を持参する事で事業所の情報提供にもつながると共に、話のきっかけ作りや市担当者との関係作りの強化にもなると考えられ、今後の取り組みに期待したい。                               |
| 4. 理念を実践するための体制 |    |                                                                                                      |                                                                                                                                                                                                            |      |                                                                                                                       |
| 7               | 14 | ○家族等への報告<br>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている                              | 毎月のお便りにホームの行事やお誕生日、全体的な暮らし振りについて記載し近況報告欄で、入居者毎の担当職員から健康状態等をお伝えし家族に喜んで頂いており、状態の変化や預り金が少なくなった場合等、必要に応じて電話連絡をしている。金銭管理については所長が収支ノートをコピーしてお便りに同封している。職員の異動についてはご家族が来られた時に口頭でお伝えしている。                           |      |                                                                                                                       |
| 8               | 15 | ○運営に関する家族等意見の反映<br>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている                                | ご意見箱が設置されているユニットもあるが活用されておらず、ご意見を書いて頂けるよう記入用紙や筆記用具の設置、面会に来られた時に用紙を渡して書いて頂く工夫や、来訪の間隔が開く家族に対しても電話や手紙などでご意見が頂けるような取り組みを検討中である。                                                                                | ○    | 2つのユニットはご意見箱の設置や、ご意見を書きやすいような用紙などの工夫を考えており、職員と家族が交流できる場も作っていききたいとの思いがあり、率直なご意見を頂きホームの運営に反映出来るような家族会に発展されることを期待していきたい。 |
| 9               | 18 | ○職員の異動等による影響への配慮<br>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 離職や新入職員の偏りにより、ユニット間の介護力を均一化する為に、異動を行う事はあるが基本的に異動はしない。職員の勤務条件の改善の為、基準以上の人員配置にし有給休暇をとれるような状況である。職員旅行や経年別の食事会や忘年会、歓送迎会など年に4～5回職員親睦の場を設け職員のストレス解消に努め、働きやすさに配慮され職員も実感している。                                      |      |                                                                                                                       |
| 5. 人材の育成と支援     |    |                                                                                                      |                                                                                                                                                                                                            |      |                                                                                                                       |
| 10              | 19 | ○職員を育てる取り組み<br>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている              | ホーム内の研修委員が施設長からの講師紹介を基に、講師依頼や講義内容、日程調整を行い計画を立案し、その時に応じた話題等取り上げながら、定期的に単独や系列事業所と合同で行っている。勤務年数に応じ基礎研修受講や、資格取得への声かけや費用の補助を行っている。随時の研修は出来るだけ参加できるようにし、伝達研修を行っている。育成計画書として作成されているが、施設長は個々の職員の適正を把握した上で教育を考えている。 | ○    | 管理者自身が人を育てる視点で、職員と関わりながら育成計画の原案を作ったり施設長と話し合い、職員個々が段階的に力をつけていけるよう取り組まれる事に期待していきたい。                                     |
| 11              | 20 | ○同業者との交流を通じた向上<br>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている    | 施設長は佐世保市認知症連絡協議会の東部ブロック長をしており、職員と一緒に会議に出席している。認知症ケア研究会や精神科病院ネットワークの勉強会へ参加したり、施設長家族が西海市福祉協議会に参加している。権利擁護事業や課題の検討、市からの出張講座やグループホームが集まって職員親睦会を開催したり、全職員が年1回は相互訪問出来るようにすると共に他グループホームからの実習受け入れも予定している。          | ○    | 相互の見学だけではなく一日実地研修を行う等、質を高めていく為にも外部を見る事や知る事で、良い所や伸ばせる所に職員自らが積極的に取り組んでいけると考えており、今後の更なる充実に期待したい。                         |

| 外部                                 | 自己 | 項 目                                                                                                    | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)                                                                                                                                                                                     | (○印) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取組んでいることも含む)                                                                                                           |
|------------------------------------|----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>         |    |                                                                                                        |                                                                                                                                                                                                                     |      |                                                                                                                                            |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応          |    |                                                                                                        |                                                                                                                                                                                                                     |      |                                                                                                                                            |
| 12                                 | 26 | ○馴染みながらのサービス利用<br>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 利用開始前には施設長が訪問したり、家族が見学に来られたりしたり、併設の宅老所を利用しながら土・日曜日はホームに遊びに来て頂き、職員や他入居者と顔馴染みになって頂いている。体験入所を利用しお互いが知り合う機会を作り、無理をせずに事前にその方の行動様式や情報収集等行っている。                                                                            |      |                                                                                                                                            |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援          |    |                                                                                                        |                                                                                                                                                                                                                     |      |                                                                                                                                            |
| 13                                 | 27 | ○本人と共に過ごし支えあう関係<br>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている                       | 料理や手芸、昔の生活や苦労話等をして頂いたり、肩を揉んで貰ったり、ケアの度に「ありがとう」と感謝の言葉を頂き、職員が励まされ力づけられている。他の入居者が転倒された時、日頃は関わりの少なかった入居者が「大丈夫」と声をかけながら、職員がしようとする事を先にデキパキと指示され、一緒に看病をする中で、入居者が入居者を心配され互いを気遣っている事に気付き、入居者から支えられているという事を感じている。              |      |                                                                                                                                            |
| <b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b> |    |                                                                                                        |                                                                                                                                                                                                                     |      |                                                                                                                                            |
| 1. 一人ひとりの把握                        |    |                                                                                                        |                                                                                                                                                                                                                     |      |                                                                                                                                            |
| 14                                 | 33 | ○思いや意向の把握<br>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している                                           | 職員がリハビリパンツで排尿体験をし、入居者の不快感を知り昼間は自分の下着で過ごして頂いている。転倒し骨折の痛みで動かない時、一緒に横になり苦労話をお聞きしながら、その時の言葉や表情から“もっとできる事はないか”と考え、カレンダーに○をつける、日めくりの為に居間に出来る、外出の機会をおやつ選びで計画したり、カレンダーに書き込んである事は実行が容易に出来る事に気付き、予定を全て書き込み今ではホームのお花を生けて頂いている。 |      |                                                                                                                                            |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し     |    |                                                                                                        |                                                                                                                                                                                                                     |      |                                                                                                                                            |
| 15                                 | 36 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画<br>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している        | アセスメントにセンター方式を取り入れ個別の課題や目標、地域で暮らす視点に結びつけているが、入居者の思いや家族のご意見を十分に反映出来ていないものがある。計画の説明・同意の際も家族の方からは「おまかせします」と、言われる事が多く表現が難しい所もあると考えている。必要に応じ協力病院の医師に相談したりアドバイスを頂きながら計画作成している。                                            | ○    | センター方式を活用しながら入居者や家族の思いを、十分に計画に反映出来るよう課題や目標、ケア内容についても入居者が言われた言葉や、解りやすい表現にしたり“このケアは如何でしょうか”等、具体的にお伺いする事でご意見を頂きやすくなる事も考えられる。今後の取り組みに期待していきたい。 |
| 16                                 | 37 | ○現状に即した介護計画の見直し<br>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している    | 定期的な見直し時期の前に、要望や状態の変化のあった時や新たな気付きがあった場合も、臨機応変に計画の見直しは行われている。ユニットによっては来訪がなかった家族の方には、計画をお渡しする時期が遅くなっている事もある。特に状態変化や新たな要望がない方についても、全入居者について、毎月検討を行っている。                                                                | ○    | 計画作成前にご意見を伺うだけでなく、家族の来訪がなかった場合も作成した計画書をその都度お送りし、新たなご意見・ご要望や計画への気付き等お聞きしながら、定期的な評価や次の計画に結び付けられていく事に期待したい。                                   |

| 外部                          | 自己 | 項 目                                                                                         | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)                                                                                                                                                                        | (○印) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取組んでいることも含む)                                    |
|-----------------------------|----|---------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|---------------------------------------------------------------------|
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援           |    |                                                                                             |                                                                                                                                                                                                        |      |                                                                     |
| 17                          | 39 | ○事業所の多機能性を活かした支援<br>本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている                             | 短期利用共同生活介護や医療連携体制、看護職員が情報交換しながら早期退院に結び付け、ホーム内でリハビリを行ったりしている。帰宅希望時には家族や親せきの方と1日一緒に過ごしたり、外泊時の準備や送迎をおこなっている。お墓参り、魚釣り、今まで自分がされていた畑を見にいたり、ホーム内のチャペルでの葬儀や納骨堂に安置され手厚く法要されている。                                 | ○    | 地域の中のホームとしての役割や、今後地域の方の要望に応じて出来る支援を検討していきたいと考えており、今後の取り組みに期待していきたい。 |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 |    |                                                                                             |                                                                                                                                                                                                        |      |                                                                     |
| 18                          | 43 | ○かかりつけ医の受診支援<br>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している              | 入居時に希望する医療機関をお聞きし、協力医療機関に変更を希望される方が殆どである。毎月全入居者は訪問診療を受けており、ご希望や必要に応じ皮膚科、耳鼻科、脳神経外科等の受診し、職員が通院介助を行っているが家族に依頼する事もある。受診時変化があった場合は、速やかに報告しているが特に変化がない場合は定期的な報告の際に行っている。家族だけで受診された時も職員が結果をお聞きし十分把握している。      |      |                                                                     |
| 19                          | 47 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有<br>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 看取りの方針について入居時に説明し、入居者・家族の意向は把握できている。状態変化がある時には、その都度職員も含め繰り返し合い、今後の対応についてや思いを十分にお聞きしながら方針を共有している。親族がいらっしゃらない事で最期の時を不安に思っておられる方についても、常にその気持ちを受け止めながら、対応できるよう体制も整えている。                                    |      |                                                                     |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援   |    |                                                                                             |                                                                                                                                                                                                        |      |                                                                     |
| 1. その人らしい暮らしの支援             |    |                                                                                             |                                                                                                                                                                                                        |      |                                                                     |
| (1)一人ひとりの尊重                 |    |                                                                                             |                                                                                                                                                                                                        |      |                                                                     |
| 20                          | 50 | ○プライバシーの確保の徹底<br>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない                          | 排泄介助時の誘導や急に立ち上がった時に「トイレに行きましようか」「ちょっと待ってください」とつい出てしまう事があり、その場でお互いに注意し合っている。就寝前になると「夫が帰っていない」と不安になられる方に対応している時の、他の入居者への対応方法について等ミーティングで検討したり、常にぶらばーの保護という観点で取り組んでいる。個人情報保護についてもメモ紙の処理等に留意し、漏えい防止に努めている。 |      |                                                                     |
| 21                          | 52 | ○日々のその人らしい暮らし<br>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している            | 生活のリズムが取れるよう声かけを行うが無理強いはず、声かけをしながら出来る事をお願いしたり、新聞紙でゴミ箱を折ったり豆の選別や、野菜の下ごしらえなど提案し、その方に出来る役目を持って頂き達成感を味わって頂ける様にしている。その日の行動を見ながら、落ち着かれない時は様子を見ながら、外気浴や散歩にお誘いしたりご希望をお聞きして支援している。                              |      |                                                                     |

| 外部                            | 自己 | 項 目                                                                             | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)                                                                                                                                                                                    | (○印) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取組んでいることも含む)                                                                |
|-------------------------------|----|---------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------|
| (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 |    |                                                                                 |                                                                                                                                                                                                                    |      |                                                                                                 |
| 22                            | 54 | ○食事を楽しむことのできる支援<br>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている    | 入居者と一緒に献立を考えたり野菜の下ごしらえ、盛り付けや配膳・下膳、食器拭き等出来る方には手伝って頂くようにしている。5・7分づき米や大豆たんぱく質の食材を利用しながら、お肉・お魚の日等取り入れ材料その物の味を楽しめるようにしている。地域の方の農園で収穫した野菜や果物等、旬の食材を採り入れたり巻寿司やバラ寿司、ぜんざい、饅頭や誕生会のケーキ、時間がある時には弁当を作ったりハイキングに行く等、楽しめるよう工夫している。 |      |                                                                                                 |
| 23                            | 57 | ○入浴を楽しむことができる支援<br>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している   | 入浴時間はある程度決めているが、回数については特に取り決めはなく生活習慣や希望に応じているが、就寝前のご希望時には陰部清拭等に対応している。順番や体調に無理のない範囲で湯温や入っている時間等、希望に応じて対応している。朝の入浴を嫌がられる方も朝声かけを行い午後に入浴したり、昔行った温泉の名前を言ったり、他の入居者に誘って頂いたり来訪の家族と一緒に入って頂く等の工夫をしている。                      |      |                                                                                                 |
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 |    |                                                                                 |                                                                                                                                                                                                                    |      |                                                                                                 |
| 24                            | 59 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援<br>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 料理の下ごしらえや居室の掃除、自分が出来る事として洗濯物をたたんだり、犬の世話や歌詞を壁に貼ったり、日めくりや生け花、スポーツ観戦、手芸、釣り等を楽しんで頂いたり教会のお祈りに参加したり、お願いできそうな役割をして頂き手伝って頂いた事に感謝する等、生活歴等を把握した上で役割や楽しみ事を持って頂けるよう、積極的に取り組んでいる。                                               |      |                                                                                                 |
| 25                            | 61 | ○日常的な外出支援<br>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している                   | 毎週土曜日に開かれている教会での聖書の勉強やお話、体操に出席したり、お彼岸のお寺さん参りや希望により行きつけの床屋に行っている。外出が難しい方や嫌がられる方についても中庭の散歩や、入居者の気分や体調に配慮しご希望をお聞きしながら、お菓子屋さんや100円ショップに買い物に行く等、外出により気分転換が図れるよう支援している。                                                  |      |                                                                                                 |
| (4) 安心と安全を支える支援               |    |                                                                                 |                                                                                                                                                                                                                    |      |                                                                                                 |
| 26                            | 66 | ○鍵をかけないケアの実践<br>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる          | 19:30～8:30迄は防犯上の施錠をする以外は、すべての出入りに施錠せず自由に出入りが出来るようになっている。職員が作業する場所や立つ位置を工夫したり、玄関のセンサーや戸をあけた時に鈴が鳴るようにしており、職員が出入りする際は声を掛け合っている。入居者が1人で外出された時も地域の方から連絡をして頂いたり、ホーム迄お連れして頂く等の協力をお願いしている。                                 |      |                                                                                                 |
| 27                            | 71 | ○災害対策<br>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけしている     | 火災を想定した消防訓練を年2～3回利用者と職員で行い、内1回は消防署も含めて行っている。災害時には隣3軒の方から電話連絡をして頂く体制になっており、消火のお手伝いを地域の方へもお願いしているが、訓練への参加に迄は至っていない。防災の研修に参加し災害に備えた備品等も現在検討中である。                                                                      | ○    | 地域の方や家族の方も一緒に消防訓練に参加して頂く為の取り組みや、災害時の備蓄について必要な物品や必要量についても今後検討していく予定であり、実践的な訓練に結び付けられる事に期待していきたい。 |

| 外部                        | 自己 | 項 目                                                                                                           | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)                                                                                                                                                                            | (○印) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取り組んでいることも含む) |
|---------------------------|----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|-----------------------------------|
| (5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 |    |                                                                                                               |                                                                                                                                                                                                            |      |                                   |
| 28                        | 77 | ○栄養摂取や水分確保の支援<br><br>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている                                   | 大豆タンパクの食材や野菜中心の献立を利用しているが、入居時に食事の好みや希望をお聞きし肉や魚などに食材を変更したり、御飯にかけずに別皿に盛ったり味付けを変えたり、食形態を工夫する等して好みに応じて支援している。独居で3ヶ月間食事が出来ていなかった方が、普通に食べれるようになられている。施設長の友人の栄養士に献立をチェックして貰ったり、定期的な体重測定や血液検査の結果に基づき医師からの助言を受けている。 |      |                                   |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり   |    |                                                                                                               |                                                                                                                                                                                                            |      |                                   |
| (1)居心地のよい環境づくり            |    |                                                                                                               |                                                                                                                                                                                                            |      |                                   |
| 29                        | 81 | ○居心地のよい共用空間づくり<br><br>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 会社の寮であった為ホールは広くりビングに少し段差のある畳の場所が設けられ、演芸の舞台や寝転んだりできるようになっている。ユニットによってはソファが置かれ、仲の良いご入居者同士の談笑の場となり、心地よく過ごせるように工夫されている。季節の花が飾られていたり、窓をあけ換気を行ったり温湿度計を随所に設置する等、居心地よく過ごせるよう配慮されている。                               |      |                                   |
| 30                        | 83 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮<br><br>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている                   | ベッドと整理たんすはホームの備え付けが準備されており、希望により畳の部屋に変更して布団を利用して頂いている。家族の写真や外出した時の写真が飾られたり、自分で作られた作品が飾られ、家族と相談しながら使い慣れた物や好みの物を持って来て頂き、居心地良く過ごせるよう工夫している。                                                                   |      |                                   |